

【問題 I】(20 点:各 4 点)

次の言明の下線部分に誤りがあれば、解答用紙の 内に×(バツ)と記して理由を述べなさい。正しければ 内に (マル)とだけ記しなさい。

ペティ＝クラークの法則とは、局面では、所得分配が悪化していくが、成長が進むとやがては、分配が改善するという命題である。

完全競争の下では、市場賃金が限界生産性を下回っているとき、企業は労働者を増やすことによって利潤を増加できる。

ルイスの無制限労働供給理論においては、生存賃金より低い限界生産性を有する労働力が伝統部門に存在する限り、近代部門は、一定の賃金率のまま再投資を行い、生産規模を拡大することが可能である。

アジアにおける「緑の革命」における高収量品種は、伝統種との比較において、背丈が高く茎が強靱であるため、深水田に適し倒伏しにくいという性質を有している。

アジアにおける「緑の革命」によって、米の生産性は上昇したものの、作物転換によって輸出商品作物の生産は落ちてしまった。

【問題 II】(30 点:各 15 点)

以下の題意に即した図になるように、解答用紙の図を完成しなさい。

E 点は、農村市場賃金 (w) が与えられたとき、ある地主が賃金労働制度を採択した状況を示している。このとき、地主は、全く同じ利潤を定額措置制度によって得ることが可能である。なお、このときの地主の取り分を、上下 2 つの図のそれぞれで示しておくこと。

ハリス＝トダロ型人口移動モデルでは、失業均衡が生じている状況で、農村と都市の両部門に、ごく僅かな額であったとしても、労働者一人あたりの賃金補助金を同額ずつ付与すれば、1) 失業の縮小、2) 賃金格差の緩和および 3) 国民所得の増大を同時に実現することが可能である。なお、両部門への補助金と 1)～3) の実現がわかるように示しておくこと。

【問題 III】(20 点:各 10 点)

次の間に簡潔に答えよ。

マルサスの『人口論』における悲観的な予測は、先進国に当てはまらなかった。その理由を挙げ、発展途上国の人口問題への含意を述べよ。

発展途上国における都市近代部門の賃金が、農村部門のそれと比べて著しく高い理由を列挙しなさい。

【問題 IV】(30 点)

次の各問に答えなさい。最終的な答えは解答欄上部の枠の中に記し、その下に各問毎の途中経過を簡単な図とともに残しておきなさい。

次のような価格 1 の農産物を生産している分益小作制度を考える。

$$(\text{生産関数}) Y = -1/2 \cdot L \times L + 10L$$

ただし、 Y :農産物の生産量, L :雇用労働量 ($0 \leq L \leq 10$) である。

$$(\text{農村市場賃金}) w = 2$$

ただし、賃金は農産物価格で測ったものである。

このとき地主が自分にとって最適な小作率を提示したにもかかわらず、地主が小作人を説得し監督できなかった場合の農産物の生産量を求めよ。(10 点)

次のような価格 1 の農産物を生産している農村経済を考える。

$$(\text{生産関数}) Y = -1/2 \cdot L \times L + 12L$$

ただし、 Y :生産量, L :雇用労働量 ($0 \leq L \leq 12$) である。

$$(\text{労働供給関数}) L = w$$

このとき、次の各問に答えなさい。

- (1) 市場均衡を達成する賃金を求めよ。(5 点)
- (2) 買手独占が成立するときの賃金を求めよ。(10 点)
- (3) 買手独占によって、生産はどれだけ少なくなっているかを求めよ。(5 点)